

先日の運動会、ご多用の中、たくさんの保護者のご観覧を得て、子どもたちの練習の成果を見ていただけましたこと、お礼申し上げます。3年間にわたったコロナ禍のため、人数制限をしておきの運動会が続きました。その間、映像を通して見ていただくしかなかったこと、心苦しく思っていました。今年度は、やっと、子どもたちが大好きなおじいさん、おばあさん方に成長した姿を見ていただくことができました。「ほんとうに感動しました。いい演技を見せてもらえました。」とお礼のお言葉をかけてくださる方が何人もおられました。中には、涙を浮かべて感謝を伝えてくださった方もおられ、恐縮するとともに、子どもたちの頑張りや、指導に当たった教職員たちの労を癒してくださっているようで、ありがたかったです。また、閉会後の片付けも多くの保護者の有志の方々がお手伝いいただき、短時間で終ることができました。6年生の働きぶりも立派でしたが、それは、こんな保護者の姿を見て育っているからなのだと、改めて玉島小学校区の風土のすばらしさを感じたところです。卒業生も何人か手を貸してくれていました。こんな姿を見ることができると、送り出した立場として、喜ばしい限りです。

閉会式のご挨拶でも申し上げましたが、地域の方々や保護者の皆様の応援こそが、子どもたちに“多くの人々に支えられている”ことを実感させてくれます。その実感が強いほど、“自分も誰かを支える人になろう”との思いを抱くことにつながると思っています。これからも、子どもたちの最高の応援団として、本校の教育活動の推進に、より一層のご理解とご支援をお願いいたします。

前号・前々号に続いて、今年度の3つのキーワードの最後、「気持ちを届ける挨拶」について書かせていただきます。挨拶のめあてといえば、「元気な…」「大きな声で…」という枕言葉がつくことがほとんどでした。玉島小学校に校長として着任したとき、今、本校の保護者になっているかつての教え子との会話の中で気づかされたことがあります。「家の子、大きな声を出すのが苦手なんよな…。『大きな声で挨拶』が目標になると、できないから辛そう…。」というような内容でした。確かに、どの子にも得手不得手があります。元々大きな声が出せる子は誉めてもらえるのに、声を出すのが苦手な子が肩身の狭い思いをしているのならば、我々の指導の仕方の問題があります。挨拶をすることの目的は何かと考えてみました。それは、相手に自分の気持ちを届けることで、相手を気持ちよくさせることだと思うのです。ならば、自分にできる方法で「気持ちを届ける挨拶」に取り組めばよいはず。たとえ声小さくても、いや無言であっても、立ち止まって相手の目を見てきちんと頭を下げたなら、気持ちは届きますよね。にこっと笑顔で頭を下げても、うれしいです。「〇〇さん、おはようございます」のように、相手の名前を添えて挨拶をする（本校ではスペシャル挨拶と称しています）のもいいですね。「自分にできる方法で、相手に気持ちを届ける挨拶をしよう」と、子どもたちに呼び掛けてから4年目を迎えました。それに応えてくれる子がぐっと増えています。

一つ気になるのは、校外でも近所の人や地域の人にできているのか…ということです。そこでお願いします。地域の人に「気持ちを届ける挨拶」を実践できている子がいましたら、学校にお知らせいただきたいのです。子どもたちを育てるには、誉めてもらうこと認めてもらうことが特効薬になります。地域の皆様からの声を、子どもたちに伝えていくことで、自分もやってみようと思えることができると思うのです。これこそ、“地域で地域の子どもの育てる”ことになるのではないかと考えます。校内でできていることを、校外でも実践できるようにしたいと願っています。ご協力をよろしくお願いいたします。

校長 高木 盛雄

## ☆水泳の学習がスタートします！

運動会が終わったばかりですが、次は水泳の学習が始まります。高学年が中心になって、プール掃除をしてくれます。身体が大きくなり、昨年度の水着が着られなくなっていないでしょうか。必要に応じて、水着の準備をお願いします。なお、昨年度から水着に名前はつけなくてよいことにしています。

